

IV 現職教育・研究推進計画

1 目的

教育専門職としての自覚を持ち、自らの資質の向上に資することを目的に、児童の人間力を育み、一人一人を生かす教育を推進するため、主体的に研修に努め、教育効果の向上を図る。

2 本年度の研究主題

主体的に読み、考えたことをまとめ表現できる児童の育成

3 主題設定の理由

これまでの「図書を活用した学習」に関する取組の成果と課題を踏まえ、令和元年度より3年計画で「主体的に読み、考えたことをまとめ表現できる児童の育成」を研究主題とし、国語科を中心に研究を進めている。初年度である昨年度は、見通しを持って「読み解く力」すなわち読解力を身に付けること、加えて語彙力を高めることに重点を置き授業改善に取り組んだ。その結果、児童は文章を読む目的を意識しながら主体的に学習できるようになりつつあるとともに、並行読書により読書の幅も広がってきている。

こういった状況を踏まえ、2年目となる今年度は、読み取ったことを基に自分の考えをまとめるということに重点を置き研究を進める。ペア・グループ学習を有効に取り入れつつ、児童一人一人が自分の考えを形成できるようにするための指導方法など具体的手立てを考えることとする。また、語彙力の向上については、昨年度、意識した指導が継続できておらず、今後もさらに研究を深める。

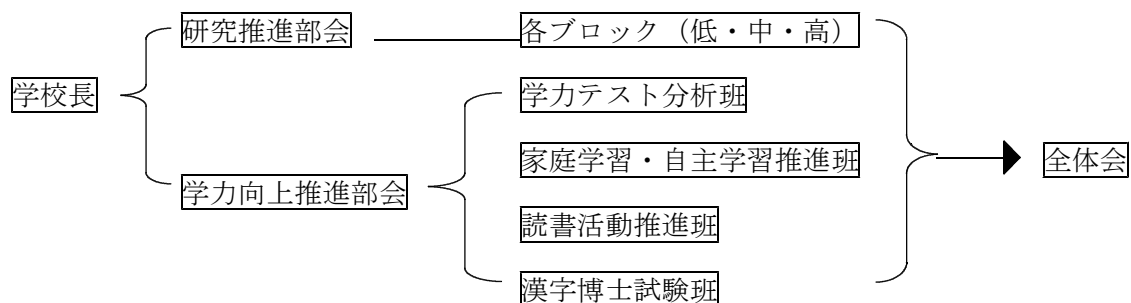
4 研究仮説

見通しを持って文章を精査・解釈することができれば、自分の考えを持ち、表現することができるだろう。

5 研究の視点

- ① 何のために読むのかという、文章を読む「目的意識・課題意識」が明確な単元構成になっているか。
- ② 読んだことをもとにして自分の考えをまとめ、表現する活動がある授業になっているか。

6 研究組織



7 年間計画

時期	1学期	2学期	3学期
内容	現職教育計画の作成 (コミスク、特支、服務、幼小連携 などを含む) 研究授業事前検討会 研究授業・協議 学力テスト分析 夏期研修	研究授業事前検討会 研究授業・協議 伝達講習 学力テスト分析	研究授業事前検討会 研究授業・協議 研究収録作成 次年度現職教育計画の検討

8 研究を支える活動

- ① 授業スタイルの統一（和歌山の教育 基礎基本3か条）
- ② 学級活動の充実
- ③ 岩小タイム（朝学 8：30～8：40）
- ④ 放課後補習
- ⑤ 漢字の博士試験（年3回）
- ⑥ 学力テスト分析
- ⑦ 家庭学習・自主学習の推進
- ⑧ 読書活動の推進

9 年度末研究評価の視点

- ① 研究の視点は仮説を検証する手立てとなり、授業改善につながるものとなっていたか。
 - ② 授業研究により、児童の変容が見られたか。
-